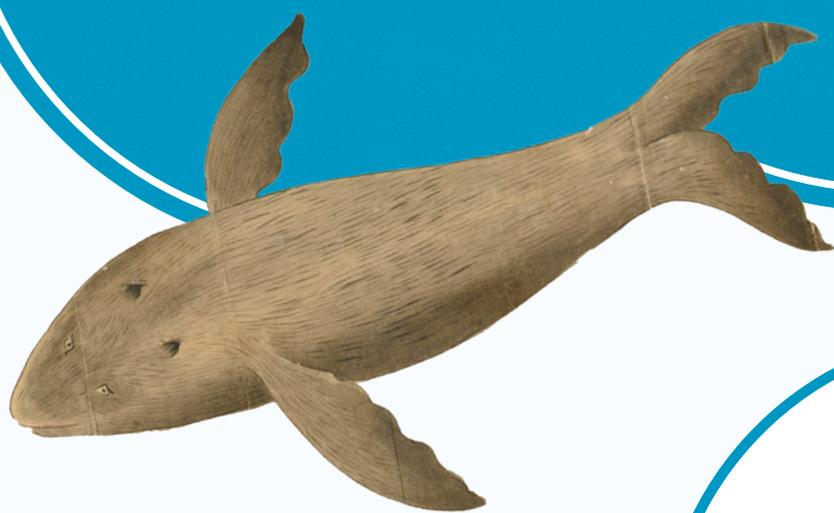




領土・主権展示館 ミニ企画展

知っていますか？ ニホンアシカ

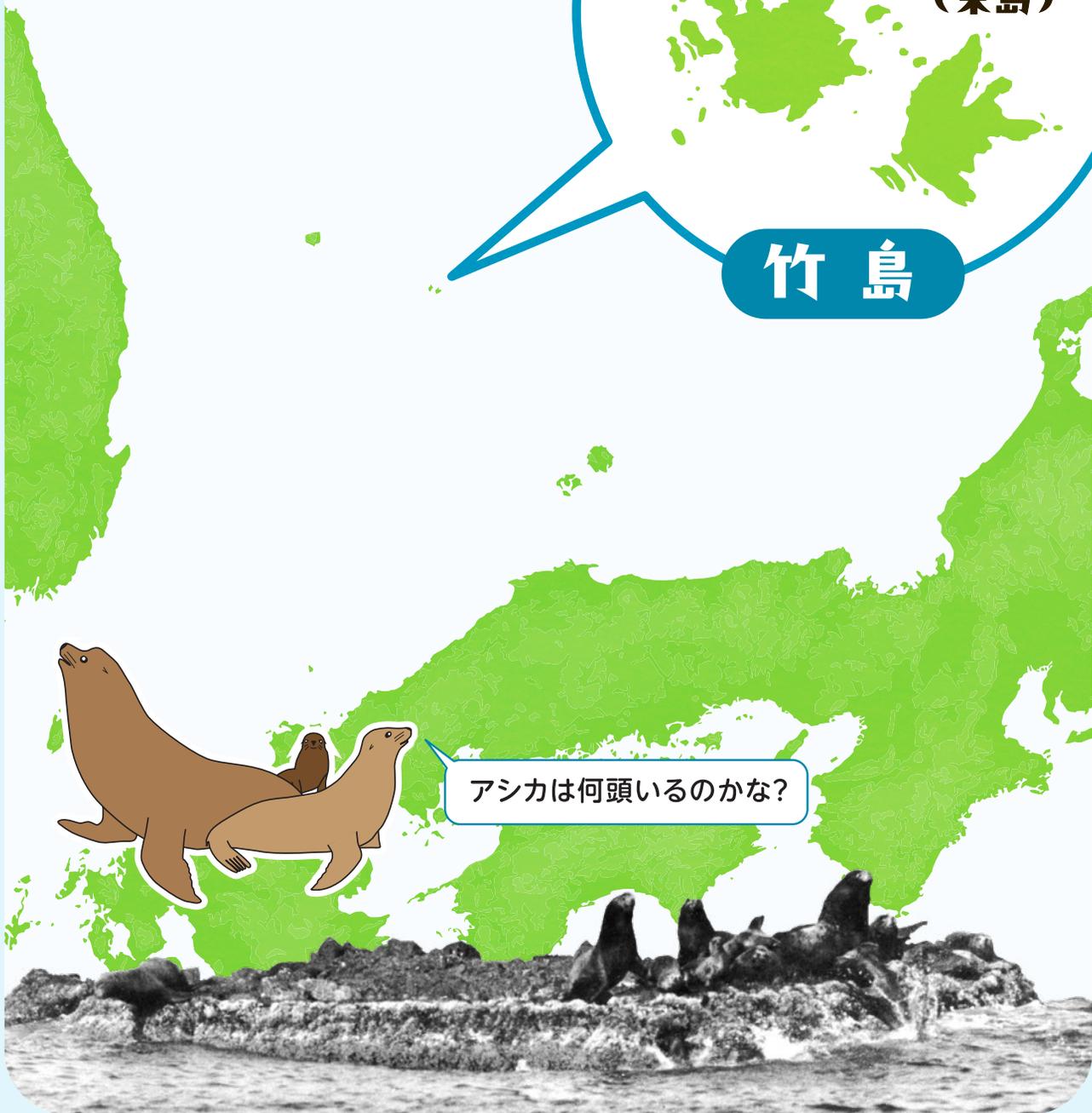


男島
(西島)

女島
(東島)

竹島

アシカは何頭いるのかな？



ニホンアシカって知ってる？



やあ、みんな！

ぼくは「ニホンアシカ」のキャラクターなんだけど、「ニホンアシカ」って知ってるかな？
かつては島根県の竹島など、日本のあちこちで見られた海のほ乳類なんだよ。50年近くも姿が見られず、環境省のレッドリストで絶滅危惧IA類（CR）とされているんだ。

右のはく製は、体長（口の先から尾の先まで）90 cm^{※1}ぐらいの若いアシカだよ！ おとなのオスは、体長が240 cmにもなるよ。体重も470～510 kg（馬^{※2}と同じぐらいの重さ）にもなるんだ。島根県の三瓶自然館にある「りゃんこ大王」（右下）はおとなのオスの世界最大のはく製だよ！ おとなのメスの体長は、160 cmぐらいだよ。

※1：全長（頭から後ろ足の先まで）は110 cmぐらい。 ※2：サラブレッドを想定。



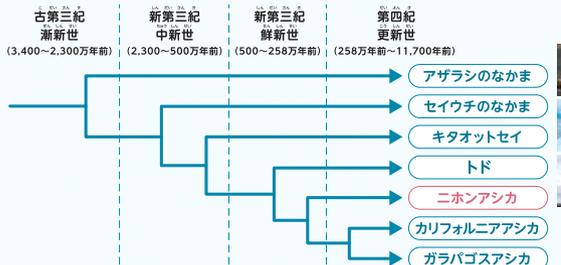
鳥取大学医学部研究委託標本

ニホンアシカのとくちょう

- タコやイカ、魚などを食べるよ！ 一方でシャチなどにおそわれて食べられてしまうこともあるよ！
- 北はカムチャッカ半島、南は九州の宮崎、西は朝鮮半島まで広いはん圏にいたよ！ おとなのオスは北に向かって遠くまで移動し、初夏になると帰ってきたよ！
- 竹島では海岸、平たい岩、洞窟などでくらしていたよ！
- はんしよく期になると、1頭のオスは10～15頭ぐらいのメスを独せんするよ！ メスは6月ぐらいに1頭の赤ちゃんを産むよ。



アザラシ・セイウチ・アシカの仲間^{※3}の進化のようす



米澤隆弘「哺乳類の系統：その起源と進化」哺乳類編「日本の絶滅獣類：海に生きるアシカとアザラシ」（東京大学出版会、2020）p.20～p.34の図を元に製士・主権者製図が作成。

だれが近いなかなのかわかるね！ みんなが動物園や水族館でみるアシカはたいていカリフォルニアアシカだよ。



アザラシとはかなりはなれているけれど、からだのちがいは何かな？ 今度、動物園や水族館でたしかめてみよう！

製士：山崎 主権者：山崎

日本人の生活の中での ニホンアシカ



ぼくたちニホンアシカは、今では姿を見ることができなくなってしまったけれども、昔から日本人にはなじみがある動物だったよ！ 全国にアシカやトドの名前が付いた島や岩などが残っているよ！ また、時代や地方によってぼくたちの呼び方もさまざまで、「ミチ」「メチ」「トド」「アジカ」などと呼ばれたんだ。漢字の書き方も「海驢」「海鹿」「海獺」「海馬」など色々あったんだ！

古い本や地名の「トド」には、本当のトドの場合とニホンアシカの場合があるんだね。どっちかたしかめるの大変だ・・・



尖閣群島のイメージキャラクター
アルパちゃん

ニホンアシカの分布図



伊藤徹也・中村一恵「ニホンアシカの分布の復元:ニホンアシカの復元にむけて(9)」「海洋と生物」第16巻5号 p.387の図に、伊藤徹也「ニホンアシカの生態復元の試み:ニホンアシカの復元に向けて(12)」同第17巻2号 p.151・154に記述のある隠岐郡西郷町(当時)白島を追加。

日本人の生活に 昔からゆかりがあった ニホンアシカ

その1 縄文遺せきで骨が出土



北方領土のイメージキャラクター
シロアキちゃん

北海道礼文島などの縄文時代の遺せきから、ニホンアシカの骨がたくさん出ているっど！

その2 『古事記』(712年)に登場



『古事記』の「海幸彦・山幸彦」の神話には「美智(ミチ)」としてアシカが登場するよ！

その3 出雲大社の神事



出雲大社では、毎朝の神事や「古伝新嘗祭(秋の神事)」で、ミチ(ニホンアシカ)の皮が使われているよ！



(上) 出雲大社のミチの皮
写真提供:井上真央鳥取大学名誉教授

竹島のニホンアシカの歴史(その1)



5月～8月頃になると、竹島はアシカで大にぎわい。アシカの家族は一夫多妻で、1頭のおとなのオスはたくさんのメスとともにくらすんだ。メスは1頭の子どもを生んで、子育てにはげむんだ。そして、メスのお腹には、つぎの新しい生命がやどるよ。このはんしよく期をすぎると、オスは北に向かってひとりりで旅に出るんだ！島をはなれるメスもいるよ。若いアシカやメスの一部は島に残るけれども、はんしよく期のようなにぎわいはないよ。だから、竹島のアシカ漁はぼくたちがたくさんいる時期に合わせて行われていたよ！

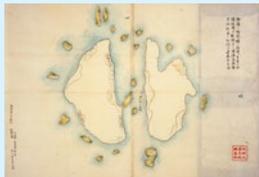
江戸時代

17世紀、今の鳥取県の米子の商人である大谷家と村川家は、江戸幕府の許可をもらって竹島と朝鮮半島の間にある鬱陵島でアシカやアワビをとったり、めずらしい木を切って持って帰る仕事をしていました。その途中にある竹島でも幕府の公認のもとに、アシカやアワビをとっており、アシカの油は火をともして明かりとして使われました。

竹島ってどこかな？



(上) 大谷家文書にある「みちのかほ(かほ)」の絵
所蔵：島根県竹島資料室



(上) 村川家がえがいた竹島(当時の名前は「松島」)
の図の写し
「松島之図」(東京大学史料編纂所所蔵写)

明治時代・大正時代

1900年頃から、アシカの皮をとるため、竹島の利用がさかんにになります。1903年にアシカ猟に参加した隠岐在住の中井養三郎は、多くの人々がアシカをとることによって数が減ることを心配し、1904年に竹島を自分(中井)に貸すように国に願いました。

1905年に国はこれを受けて、竹島を島根県の一部としました。島根県は、中井のほか実績のある3名に共同で会社を作らせて、アシカ猟を許可しました。隠岐の人々によるアシカ猟はその後も行われました。



所蔵：国立国会図書館

(左) 1902(明治35)年3月3日付の「京都日出新聞」の記事「海獵鯨を驚かす」のさし絵。京都の見世物小屋からリヤンコ島(竹島)でつかまえてきたニホンアシカがにげ出して大さわぎになったという記事。これまで見つかったアシカ猟の公式な記録は1903(明治36)年のものもとても古いものです。この記事はその前から竹島でアシカ猟が行われていたことを示します。



出典：鳥取県立倉吉東高等学校「創立百周年記念誌」

(右) 黒板にアシカと竹島をえがき、生徒に体験を話す中井金三。中井養三郎のおりにある。東京美術学校(現：東京藝術大学)を卒業後、倉吉中学(現：倉吉東高校)の図画教師となり、山陰地方を代表する画家でした。1909(明治42)年に竹島でかいた絵の一部は倉吉博物館(倉吉市)にあります。

竹島のニホンアシカの歴史(その2)



かつては千島列島・サハリン南部から九州、朝鮮半島など広い範囲にいたニホンアシカは、1975年に竹島で見られたのを最後に姿が見られないよ。なぜ、ニホンアシカが姿を消したのか、冷静で学術的な議論が必要だね。

昭和時代(戦前)

昭和の初めになると、隠岐の人々は、アシカを生けどりにして動物園やサーカスに売られるようになりました。1934(昭和9)年には、大阪朝日新聞の記者が竹島にだけ、「日本海のアシカ狩」という連載記事を書きました。この時つかまえたニホンアシカは大阪動物園(後の天王寺動物園)に運ばれて人気者になりました。このようなアシカ猟は1941(昭和16)年まで行われました。



(上) 1941(昭和16)年のアシカ猟に参加した人たちの集合写真。
所蔵: 隠岐の郷町

ウコンヤリ大王 大 怪偉のアシカ 遂に射殺さる 大阪動物園の本館正面へ 銅製となりお目見得



附止めたリヤンコウ大王 1934年(昭和9)年 日本海のアシカ狩



(上) 1934(昭和9年)大阪朝日新聞の取材でさつえいされた写真。
所蔵: 島根県竹島資料室

(左2枚) 1934(昭和9)年の大阪朝日新聞記事「怪偉のアシカ、リヤンコウ大王遂に射殺さる」。天王寺動物園にあった最も大きいのはく製が、1934(昭和9)年の大阪朝日新聞の取材の時に「リヤンコウ大王」と呼ばれて猟師からおそれていたアシカであることがわかりました。
所蔵: 国立国会図書館

昭和時代(戦後)

韓国側の記録もふくめ、戦後の竹島には数100頭のアシカがいたことが報告されています。「日本人がアシカを絶滅させた」という主張は、韓国側の記録からみても無理があります。

韓国の国立海洋調査院の2013年の報告書には、アシカは「1958年に少し(200~500頭前後)生存と報告。保護政策はなく、捕獲を継続。1975年の最後の目撃以降、絶滅したと推定」と書いてあるよ。

1978年と79年に、韓国の研究者が世界自然保護基金(WWF)に提出した報告書によると、約500頭のアシカ*が「1957年まで独島に生息していたが、駐留した武装警備隊におそれをして移動してしまったようである」とされてるよ。そして、「ほんしょく地の回復にはどんな手段であれ緊急の措置が必要で、もっともよい方法は島から警備隊を撤退させることだろう」と述べているよ。

*トド、カリフォルニアアシカ、ニホンアシカを含むとされていますが、詳細な検証が必要ですよ。

